

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第120回 レベル1PRA分科会 議事録

1. 日時 第120回：2024年10月18日（金）14:00～17:15

2. 場所 Web開催（Webex）

3. 出席者

（出席委員）牟田主査，高橋（拓）幹事，丹野幹事，橋本幹事，羽佐田，佐藤，西野，岩谷，
生野，香川，吉川，竹中，塩田（13名）

（常時参加者）上田，横塚，寺島，東（4名）

（敬称略）

4. 配布資料

P4SC-120-1 第119回レベル1PRA分科会議事録

P4SC-120-2 人事について

P4SC-120-3 文献1における詳細調査結果

P4SC-120-4 倫理教育資料

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員13名が出席しており，分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また，配布された資料が確認された。

(2) 前回議事録確認

資料P4SC-120-1により，前回分科会の議事録の確認を行った。

(3) 人事について

資料P4SC-120-2により，箱崎常時参加者（東北電力）の登録解除が報告された。

(4) パラメータ推定標準改定について

資料P4SC-120-3により，最近の知見調査のための文献詳細調査の結果について審議した。
主な議論は次のとおり。今回議論できなかった分については，次回分科会で検討とする。合
わせて，今回議論を含めた詳細調査の結果を一覧の形にまとめて，改定標準への反映方針に
ついて整理していくこととなった。

- ・文献No.36についてはデータ例になるので附属書反映が適当であるかも含め，関連するwebサイトと合わせて標準での扱いを検討する。

- ・文献 No. 40～43 の 4 文献については、技術的な成熟度などの観点から参考情報としての文献リストなどに反映とていくことが考えられる。
- ・文献 No. 32, 39 については、標準への反映案のとおりでよいものと考えられる。
- ・文献 No. 30 の詳細は文献 No. 21 を参照。文献 No. 62 はマルチユニット関連であり PRA においても標準には未反映であることから現時点では急ぎの案件ではなく、文献リストなどへの反映が考えられる。文献 No. 72 は標準への反映案のとおりでよいものと考えられる。
- ・文献 No. 21, 71 については、共通原因故障に関する文献であり、標準への反映案のとおり附属書或いは技術レポートへの反映でよいものと考えられる。なお、文献 No. 21 はマルチユニット関連でもあり、現時点での必要性も考慮する。
- ・文献 No. 2 については、技術的成熟度の観点から標準への反映案のとおり反映見送りでよいと考えられ、必要であれば文献リストなどで考慮する。

(5) 今後の予定等について

羽佐田委員より、柏崎刈羽 7 号機の PRA に関する規制庁殿の適切性確認において、用語の定義として「アンアベイラビリティ」に関する指摘があったことが紹介され、当分科会の標準にも関係していることから、今後の改定検討において考慮していくこととなった。

また、9 月の原子力学会秋の大会での階層化標準の今後に関する標準委員会セッションの概要と、5 か年計画に計上されている階層化基準・指針前の旧 PRA 標準の廃止検討の開始について紹介があった。

次回分科会は、来年 1 月中旬以降を目途に改めて調整することとなった。

(6) 倫理教育

資料 P4SC-120-4 及び講演ビデオにより、今年度の倫理教育を行ない、次のような意見があった。

- ・コストは経済的側面で捉えがちだが、精神的・文化的な側面もあろう。各個人がどれだけそのことに重きを置いているかにもよるのではないか。この観点から見ると、リスクだけではなくハザードにも大小があると納得できる。
- ・コストは数値だが、安全は数値化が難しいとの言及があったが、安全も PRA のように数値化できる部分もあると考えるので、RIDM などリスク情報活用のさらなる普及の必要性を感じた。

以上